

報告書

令和8年1月22日（木）及び23日（金）に開催された「今こそ再確認 今の家庭
今のこどもの最新事例を現場から学ぶ」を受講いたしましたので、その概要を下記のとおり
報告いたします。

令和8年2月2日

名取市議会議長 大久保 主計 様

会派名 名取医療福祉会
代表 佐藤 さやか

記

- 1 研修期間 令和8年1月22日（木）～23日（金）
- 2 研修場所 京都 J Aビル
- 3 行程表 別紙のとおり
- 4 参加人員 1 名
〈氏名〉 佐藤 さやか
- 5 研修内容 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり

「今の家庭、今のこどもの最新事例を現場から学ぶ①・②」

～現場から視る家庭教育支援、現場から視る不登校支援～

日時 令和8年1月23日(金)①10時～12時30分 ②13時30分～16時

場所 京都JAビル 京都市南区東9条西山王町1

主催 地方議員研究会

講師 MIKURU・MIRU代表 公認心理師 山下真理子氏

1 研修概要

講師は、公認心理師であり家庭教育支援団体「MIKURU・MIRU」代表の山下真理子氏である。山下氏は、不登校や家庭内の課題を抱える親子への支援に長年携わり、家庭教育支援や不登校支援の現場実践と講演活動を行っている専門家である。

本研修では、午前に「今の家庭、今のこどもの実情と家庭教育支援」、午後に「現場から視る不登校支援」をテーマとし、具体的な支援事例や保護者対応の実際について学んだ。

2 講義内容の要点

(1)今の家庭・こどもを取り巻く状況

現在の家庭では、夫婦関係の不安定さ、親のメンタル不調、長時間労働やワンオペ育児等により、保護者自身が余裕を失っているケースが多く、そのしわ寄せが子どもの不登校や行きしぶり、問題行動として表面化している。

不登校の背景には、家庭、学校、友人関係、発達特性など複数の要因が絡み合っており、「怠け」や「甘え」と片づけてはならない。

(2)家庭教育支援の重要性

不登校や問題行動への対応を、子ども本人と学校だけに任せるのではなく、「家庭教育支援(保護者支援)」をセットで行うことが有効である。

保護者が子どもの行動の意味を理解し、叱責や押し付けではなく、安心感を与える関わり方に変えることで、子どもの状態が安定し、結果として学校復帰や学びの継続につながる事例がある。

(3)不登校支援の方向性

不登校支援においては、「学校に戻すこと」を唯一のゴールとしないことが重要であり、本人の安全・安心と自己肯定感の回復を優先する視点が必要である。

学校復帰、別の学びの場(教育支援センター、フリースクール等)の活用、在宅での学びなど、子どもと家庭に合った複数の選択肢を提示し、丁寧に合意形成を図る支援が必要である。

(4) 専門職・ネットワークの活用

スクールカウンセラーなど専門職への相談が「問題が大きくなってから」になりがちであり、早期段階から保護者相談の受け皿として活用することが重要である。

また、学校・家庭・福祉・医療がネットワークを形成し、「誰がどこまで関わるのか」を整理したうえで切れ目のない支援を行う必要性がある。

3 考察

名取市においても、不登校児童生徒数の増加、教員の多忙化、子どものメンタル不調や家庭の孤立など、全国的な傾向と同様の課題を抱えている。不登校や家庭内の課題は、「一部の家庭の特殊な問題」ではなく、市全体として向き合うべき構造的な課題である。学校現場だけに解決を委ねるのではなく、家庭教育支援と不登校支援を、教育・福祉・子育て施策を横断する共通テーマとして位置付け、名取市として包括的な支援体制の構築を進めていく必要がある。本研修で得た知見を生かし、今後の議会活動においても、現場の声に根ざした具体的な提案を続けていきたい。